

___ **今井種苗店** __ 種に加えて連作障害に強い 「接木」の苗も扱い、植え方 や生育の相談も可能。











マ 7 商 池田きんとき 懐かしさの漂うパンや人気の「ス イートポテト」は売り切れ必至! 店







くだもんや 中田 🌘

POPPET 池田本店

犬・猫の自家繁殖も手がける同店。

ットの事なら何でもお任せ!

ホタルドラッグ

引札屋

能勢産を含む 朝採り野菜と

入れる生花は

素材本来の鮮 度が自慢!

笑福中華 恵美寿

鉄板焼き一筋

48年。種類豊富 なお好み焼き

Rosso Beans

阪急池田駅

Gallery Cafe poco a poco

お好み焼き 鉄板焼 開化亭

串かつまつり 池田本店

ソースと衣に工夫あり。「まずは一度食べに来るべ

サクッふわっの焼き たてワッフルを、

オーナー手造り のアンティー



麺惣 更科 その日作る、持ち帰り用のうどん

そばが人気。店内でも味わえる♪

Nadia

主婦目線に立ったスタ

フの技術でキレイを応援 してくれるエステサロン。

_ Hair art pisca-pisca

ブランズ池田栄町 イベントスペース

日々に使える可

愛い雑貨とオー ナー親子が型紙

, から作るオリシ ナルの洋服も。

手間暇かけた自

家製の具材と新

の数々は、花見の

お弁当にも◎。

Sugar

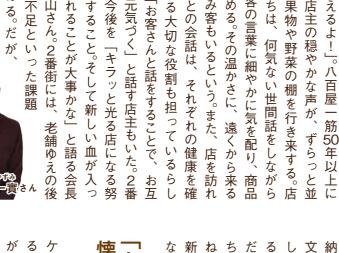
いわ寿し

呉服洋品の "最後の砦"。

「それありますよ」のクールな声が何とも心強い。

「緊張せずに気楽に どうぞ」と、"楽しい

事が大好き"な店長。





じられる。戦中や愛でる風格も感 を包み込み、 られる。戦中から いも \mathcal{O} 結

も

あ

継者不足といったの梶山さん。2番街の梶山さん。2番街 いに元気づく」と話す店主もいた。2番い。「お客さんと話をすることで、お互認する大切な役割も担っているらし 主たちは、 なる 街の今後を る客との会話は、 なじみ客もいるという。また、 を薦める。その温かさに、 んだ果物や 客の言葉に細や 山さん。2番街には 店主の穏や

お 4) さと が 懐 こ え つ こ る さ

が減って めて店を出す店主も増えて街が持つノスタルジックな雰 る空気が五感を包む。 賑や ドに足を踏み入れると、 この店主たちを影に日向に見 る。 いるとい ノスタルジックな雰囲気を求 な音楽が 困 つ 流れ たときは家族のよう 物販や新しい店 る そ 番街 れでも商店 いる。 人情味あ のア 番

納品を扱う店主からは、「結納は大切な 親御さんの思いを込 の **ごこにし** きっと、我々 める 胸が熱く た。店主た 会話を重 もの か な ح た

も教えるよ

八百屋

巻

て、駅前に商店街が形成されていった日常で必要な品を購入する場所としる環境から人口は一気に増加。住民が都市部への交通の利便性と自然が残

た。同時に分譲住宅地建設も始まり、

「池田駅」

が置か

れたことから始まっ

馬電気軌道(後の阪急電車)」の開通で

商店街の歴史は、

明治43年、「箕面有

人と共におり

始添

まい

つ

商店街

特

ここ

に

か

な

ŧ

0)

が

あ

成。

「大晦日の夜中11

時までやってた

昭和40年頃の賑わう商店街の様子を、 よ。紅白なんて見た事なかったね」と、

1番街で明治創業の呉服洋品店を営

とい

う。戦後の復興も早く

昭和26年

に鈴蘭灯、

同34年にア

ケ

ドが完

り大切にしたい」と歩み続ける商店街を訪れた。時代の波の狭間でも、「必要としてくれる人と店を守る人の支えとなっている『サカエマチ商店街』。100年以上にわたり、池田界隈で働き、暮らしてい

なってい

る

しか

しこの商店街

ッ 実 ト は

なが

ら静

かに地域に息づく存在と

昔ながらの面影を残し

は減少。今は

型店舗の進出などによって買い

物客

ほっ

ح

息つける雰囲気のスポ

あ

ることをご存知だろう

か

その道を極めた逸品を扱う店舗

心

6

歩

6

さ

が

地感

る

よ

せたという。しかしバブル崩壊後、大経済成長期の商店街は大賑わいを見映画館などの娯楽施設も作られ、高度む北田さんが語ってくれた。その後、

だそれだけではない、と感じ 新参者が行き交う中で、 ちの内に秘められた思いが、 る言葉を頂戴した。老舗を守る… ねるうちに伝わってくる。 して守って行きたいね」と、 いも が生まれていく のだろう。

話す。 ちは、 商店街で買うものがない』って。 宿って見えた。「抽選会をしても、 商品や客を見つめ、 に相談できる」。照れながら話す店主た 珈琲豆の 店舗の ŧ 「 サ カ エマ

つ商品は、 な け ŧ 自己主 تع の。来年に を 持 () る

チ商店街』は、 と思う ナリテ は直接買付けに。具材は自家製なの」。も同じ。「鮮度には自信あるよ」。「ネタいる。それは既に店を構える店主たち 他にはないオリジ ね」と頷いた。 ところが多い の商品を売っ 薬局を営む1番街理事長の吉崎さんは しゆっくり商店街を見て欲しい」。長く 隅々に手間と心をかけて こだわ 焙煎・販売を行う広報 語る瞳には光が もう少 この

張し

まだ沢山増えて きそうだ。

· の 春に ること

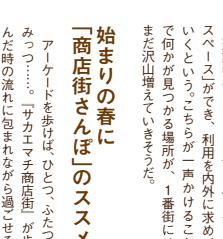
つ ア 7 時の流れに包まれ ケ くつもある。 ドを歩けば、 新し の だ。 『サカエマチ商店街』 ĹΊ 小誌が届く頃には、 発見ができる味わ 実は、 、ひとつ、 ながら過ごせる 足を運べ 、ふたつ、 が歩

待って きっと笑顔満開の店主達が、 か ぜひ な 桜の便り 店主たちに声をかけて欲 小誌を手に、 こだわ れるか も届き始めて の 商店街へと 逸品を揃え いる頃

街

を

3



利用を内外に求めて イベ

こにし だろう。 五月山の 場所が し 繰り出して、 ば運ぶほど、 んだ い深い場所な

で何かが見つかる場所が、1番街いくという。こちらが一声かけるスペース」ができ、利用を内外に求は建設中のマンション前に「イベ ^ペース」がで

し!!」と店長自信の一言。 1番街に開設予定の「イベントスペース」の活用法に ついて、本紙でアイデアを募集し、1番街へ届けます。 投稿は P25 の「クレハ編集室」まで♪

文/中村晴奈 デザイン/小林亜由 写真/Ayam

麺惣 更科

優品と、

い。「旬野菜の料理の裏ワザなん

品と、それを求める買い板が多く連なる。店主たた

店主たちは、

合にとても 、自身の商 でわせる看

物客にとて

2番街には、

古